

## 2005 年度 船舶関係諸基準に関する調査研究 成果報告会(東京) 「船舶の大気汚染防止基準の作成に関する調査研究」の開催報告

2005 年 11 月 14 日(月)13:00~17:00 に、日本財団の助成事業として「船舶の大気汚染防止基準の作成に関する調査研究の成果報告会(東京)」が、日本財団 2 階大会議室にて(財)日本船舶技術研究協会及び国土交通省の共催により開催されました。

馬淵隆之 本会会長の挨拶に始まり、伊藤茂 国土交通省大臣官房 技術審議官から来賓挨拶を賜った後、船舶の大気汚染防止に関する次のようなテーマ毎に講演が行われました。



来賓挨拶 伊藤 茂 様  
(国土交通省 技術審議官)

- テーマ 1 今後の船舶排気ガス対策について - IMO における日本の役割 -  
国土交通省 海事局 安全基準課長 安藤 昇
- テーマ 2 船舶の大気汚染防止基準の作成に関する調査研究プロジェクト(MP3)の概要  
MP3 プロジェクト・マネージャー 田中 孝雄(三井造船株式会社)
- テーマ 3 NO<sub>x</sub>・SO<sub>x</sub>・CO<sub>2</sub>を含む船舶用環境性能評価総合指標の必要性と考え方  
MP3 船舶用環境性能評価総合指標の試案作成チームリーダー  
華山 伸一(海洋政策研究財団)
- テーマ 4 SCR(選択触媒還元)脱硝装置 IMO ガイドライン日本案の解説  
MP3 NO<sub>x</sub> 低減装置の IMO ガイドライン案作成チームリーダー  
川上 雅由(新潟原動機株式会社)
- テーマ 5 4 サイクル主機関搭載 3 隻の連続 NO<sub>x</sub> モニタリング結果 - IMO への情報提供内容 -  
MP3 NO<sub>x</sub> モニタリング法による IAPP 証書再認証のシミュレーション試験  
第 1 船チームリーダー 米倉 信義(エムイーシー・エンジニアリングサービス株式会社)
- テーマ 6 NO<sub>x</sub> 発生に影響を与える重大因子  
MP3 燃焼基準試験チームリーダー 高崎 講二(国立大学法人 九州大学)



ご講演を頂いた方々

国際海事機関(IMO)で2006年4月に開催される第10回ばら積み液体及びガス小委員会(BLG10)から、船舶の大気汚染防止に関するMARPOL条約 附属書VIの見直しを検討されることになっています。当該条約の見直しにおいては、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)及び硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)の規制強化や既存船への適用が予測され、近年極めて関心の高いテーマであり、船社、造船所、機関メーカー様などから、110名を超える多数の方々にご来聴頂くことができました

成果報告会開催にあたり、多大なご支援・ご協力を頂きました日本財団をはじめとする関係団体、ご講演者及びご来聴頂いた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

同内容の成果報告会を2005年12月16日(金)13時より、メルパルク大阪(新大阪)でも開催致します。